

六ヶ所研だより

職場の安全を守る



プロフェッショナル



エネギューン

ねえねえプラズマ博士、
研究所にはいろんな職員さんがいるんだよね

そうじゃな。
六ヶ所研には様々な研究があって、
研究を支える仕事もたくさんあるんじゃ



プラズマ博士

そうなんだ！
具体的にはどんなお仕事をしているの？

お呼びかな？
エネギューンちゃん

その声は、保安管理課長さん！

やあ、こんにちは。
今回はみんなと研究所の安全を守る、
保安管理課についてご紹介します！

足元から施設まで

どうも保安管理課長です。突然ですが、「安全」と言えばみなさんどのようなイメージをお持ちでしょうか。

日常的なことから専門性が求められることまで、安全管理にはさまざまな業務があります。そんな「安全」に携わる業務を行っているのが我ら保安管理課です。

今回はその活動についてご紹介します。

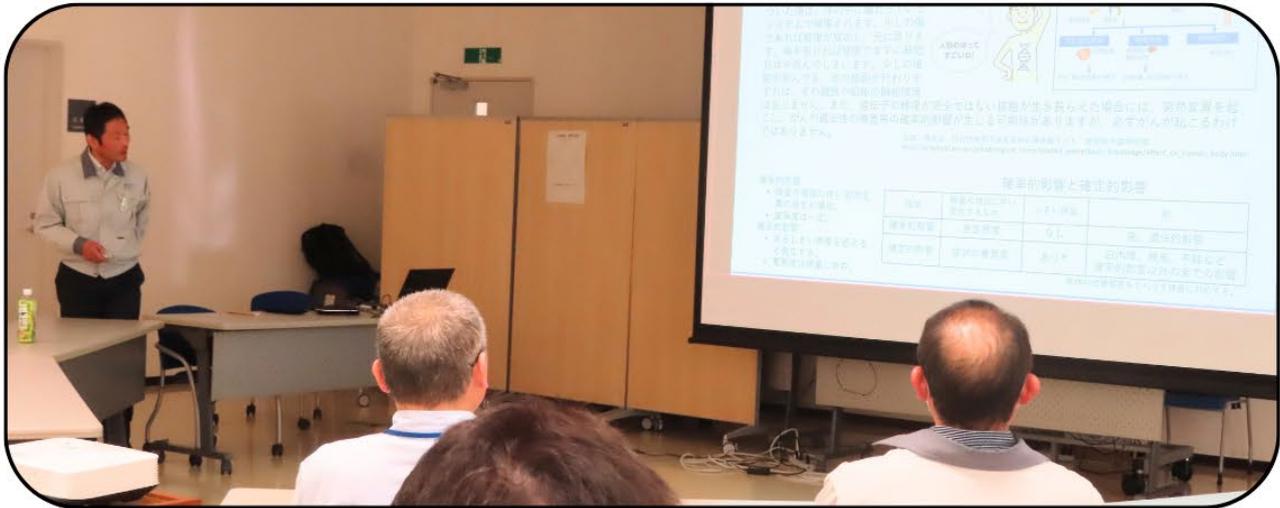


まずはみなさんにとっても身近な安全から。

例えば、整理整頓をきちんとすること。机の上が汚いと紛失のもとになります。床のコード類が乱雑に配置されていると転倒事故のもとになりますね。不安定な場所に物を置くと落下する危険性があります。

他にも怪我や事故の原因となる事象がないか、定期的に所内パトロールを行っています。

放射線管理



放射線業務従事者対象者への教育訓練。保安管理課長が講師を務め、対面・オンラインで数十名の職員が参加する。

核融合の研究所である六ヶ所研では放射性物質を取り扱う施設もあります。そのため放射線管理も重要な業務のひとつです。保安管理課では放射線を測定するための装置を所内各所に設置し、管理区域内の入退管理や線量の監視（モニタリング）を行っています。計測機器の校正や放射線業務従事者への教育も我々の担当です。日々の業務としては、所内の放射線量に異常がないか、計測装置が正常に作動しているか、担当の職員が確認しています。



IFMIF/EVEDA開発試験棟の管理区域内に設置されているエリアモニタ。計測状況は他の場所からも確認できるようになっている。

日頃の備え

消防に関する業務も保安管理課の担当です。

各建屋に設置されている消火設備などは、法令に基づき年2回の機器点検を行っています。誘導灯のバッテリーが切れていないか、消火栓のホースが劣化していないかなど入念に確認していきます。耐火服などの装備も適宜調達しています。



昨年度の総合訓練の様子

自然災害に対する備えも重要です。保安管理課では、いざという時のために食料や備品の備蓄を行っています。六ヶ所研では冬季の大雪で帰宅困難者が発生することも考えられるため、備蓄大事超大事。

万一の時は所内のみなさんの協力が不可欠です。普段の訓練の中には、保安管理課以外の職員に協力をお願いするものもあります。その中で最も大規模な総合訓練では、所内で事故や火災が発生したという想定のもと、関係各所への連絡や記者会見などの訓練を行っています。

おまけ

せっかくの取材ということなので…



一緒にパトロールに行きましょう！

今回はIFMIF/EVEDA開発試験棟の衛生巡視
LIPAC（※第3号参照）の建屋です。



コンセントが抜けていないか、
工具が散乱していないかなど
確認していきます。

以前にヒヤリハット事例があった
場所です。
しっかり対処されていますね。



今回は指摘事項なし！
お疲れ様でした。

六ヶ所研探訪記



六ヶ所研究所長
竹永 秀信

プロフィール

熊本県出身
九州大学大学院卒業
工学博士
専門
核融合プラズマ理工学



愛猫のはっちゃん

人類みんなが豊かになるには？

— 研究者になろうと思ったきっかけは何ですか？

高校生の頃（1985年）にライブエイド（※1）をテレビで見た時、現地（アフリカ）でボランティアをする方々をすごいなあと思ったのがきっかけです。

自分も何かやらなければ、みんなが豊かになるには何が必要かと考えた際に、エネルギーの研究をやるうと思に至りました。

そして九州大学工学部で核融合と出会いました。当時は那珂研のJT-60Uが動き出すなど核融合が盛り上がりつつあった時期でもあったんです。

JT-60Uで自分の実験を

— これまでの研究や仕事で思い出深いことは？

大学生の頃からいろいろな装置で実験をしてきましたが、その中でもやはりJT-60U（※2）で実験していたことでしょうか。朝早くから夜遅くまで制御室で実験や解析をしていました。世界有数の装置で自分の実験ができて楽しかったです。

その後2008年にJT-60Uはその役目を終え運転を終了、JT-60SAへの改修期間中は実験できませんし、ITERも実験開始はまだ先の話だったので名残惜しい気持ちでした。

※1ライブエイド…「1億人の飢餓を救う」というスローガンの下、「アフリカ難民救済」を目的として1985年7月13日に行われた、20世紀最大のチャリティーコンサート。（Wikipediaより引用）

※2 JT-60U…大規模改修後のJT-60。

研究を支える側へ

——企画調整のお仕事も長かったそうですね。

JT-60Uの運転終了の次の年には経営企画部に異動となり、マネジメント業務に携わることとなりました。予算獲得や役所とのやりとりで忙しい日々を過ごしました。

予算が打ち切られそうになったJT-60SAの事業説明に行った時は、ゆっくり食事をとる時間もなく移動中のエレベーターでパンを食べたことを覚えています。

いろいろありましたが面白かったかと言えば面白かったです。

——もし研究者になっていなかったら、どんな職業で働いていたと思いますか？

当時は考えたこともなかったですね。今思えば、一つのことを突き詰めるという意味で伝統工芸の職人というのもよかったかもしれません。

自分のやりたいことは何か

——これからを考えている皆さんにひとことお願いします。

難しいことかもしれませんが、自分のやりたいことを見つけたのが一番重要だと思います。やりたいことが見つければ、それに向けて頑張ることがができます。

一見、無駄だと思っても、役に立つ立たないではなく、知識や人間性を豊かにすることだと思って取り組んでみてはいかがでしょうか。

一つ昔話ですが、山登りに誘われた際に地図をもとに三角関数で斜面の角度を計算した結果、急な崖があると判明し、躊躇した記憶があります。くねくねしながら斜めに上っていくから大丈夫、と言われて行って見るとやはり目の前に崖が。結局よじ登ることになったので役に立ったかと言われると微妙ですが

(笑)



QST核融合部門の前身のさらに前身、旧原研時代のJT-60Uの実験の様子。

ホワイトボード左側に立っているのが若かりし頃の竹永所長。



施設公開2023

7/30(日)

開催決定!

遊びに来てね!



第6号です。今回は研究を支える裏側のご紹介でした。普段はあまり目立たない、縁の下の力持ち。中でも保安管理課は、個性豊かで高い専門性をもつ職員が所内の安全を守るため日々奮闘しています。みなさんプライベートもとっても充実しています(冬山でソロキャンという猛者もいたりします)。表紙の一番左の写真は課長さんが休暇で訪れた富士本栖湖の写真です。

そして今回注目の新コーナー、職員インタビューでございます。六ヶ所研の職員にいろいろなことを聞いていくコーナーです。研究者から技術者、事務職員までいろんな職員が対象になる予定です。いつか研究所で働きたい!という方のご参考になれば幸いです。新しいことにチャレンジしてみたい!という方も是非。